

# ひと街しごと

平成16年(2004)9月(年4回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南15条西18丁目

Tel(011)561-3597

編集：ひと街しごと刊行会

札幌市中央区北1条西17丁目

北海道不動産会館4階

(有)編集工房海内 Tel(011)623-6652

No. 9



歴史はいつも未来へのみちしるへです。  
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、  
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、  
思い出カードを一枚一枚めくっていきましょう。

何というぜいたくな時代だったでしょう。眼に映るもの、手に触れるもの、そのすべてが新しい発見、遊びの源、次の冒険へのステップでした。自然という、ただそこにあるだけの、偉大な師が、子供たちの限りない夢をはぐくんできました。しかしその子供たちが、成長する過程で知らず破壊してきたのがまたその偉大な師、自然でもあります。反省が間に合うなら、スピードを落とさなければ。

思い出  
カード

遊び編③





北部軍司令官官邸だったつきさつ郷土資料館



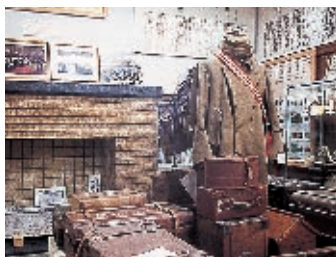
変ぼうする「軍隊のまち」

## 戦時のままの姿

## 北部方面軍防空指揮所 司令官官邸は歴史語る郷土資料館に

来年は戦後六十年  
すでに戦後という言葉が死語になった時代に  
軍隊とともに発展してきた地域も  
大きく変ぼうしました  
第七師団歩兵第二十五連隊が置かれていた  
札幌市豊平区月寒——  
戦争の悲惨さをいかに後世に伝えていくか  
この街の使命かもしれません。

資料館には軍関係の展示も多い



(上2枚)近く取り壊されるという  
かつての北部方面軍司令部防空指揮所

人口百八十五万人もの大都市に膨れ  
上がった札幌市。どのくらいの人  
が月寒に軍隊のあったことを知ってい  
るでしょうか。賑やかな商店街が続く  
国道三六号線沿いにはその面影さえあ  
りません。しかし国道を少し東側に入  
ると、二つの建物が当時のままだ。

一つは、道立月寒高校前を少し進  
んでポプラの原木が数本立っている  
一角にあるつきさつ郷土資料館で  
す。もとは昭和十六年に建てられた北  
部軍司令官官邸。重厚なつくりの車  
寄せがかつての威厳を示しています。  
戦後は昭和五十八年まで、北海道大  
学月寒学寮として使われていました。

そしてもう一つはここから程遠くな  
い月寒東二条一丁目、陸上自衛隊月寒  
通信所の敷地内にある北部方面軍司令  
部防空指揮所の建物。通りからも見え  
る巨大なトーチカのようなそれは、あ  
ちこちがはげ落ちて廃墟さながら。静  
かな住宅地にもかかわらず不似合いです。

不似合いといっても先にできたの  
はこうした軍関係の建物。その歴史を  
たどってみますと、明治二十九年、日  
清戦争の軍備拡張政策により第七師団  
が編成され、月寒に野戦独立隊という  
部隊が置かれたのがはじまり。以後、  
同三十二年には歩兵第二十五連隊とな  
り、日露戦争、日中戦争へと参戦して  
いきました。

官舎が建ち、病院が出来、商店が増  
え、農家が果樹・野菜を作りと軍需が  
地域を形成していき、札幌市の一開拓  
村に過ぎなかった一帯が、「軍都」へ  
と発展していったのです。



兵営だった地域もすっかり変ぼう  
(写真はハローワーク札幌東)



お年寄りにはなつかしい  
月寒あんぱんは健在

もはや前述の建物以外はそうした歴  
史は知らぬげです。たとえばかつての  
兵営だった地域はハローワーク、道  
立月寒高校、月寒保育園、札幌南税  
務署、市営住宅などに。また練兵場  
だった一帯は月寒消防署、屋外競技  
場、体育館などに変わっています。

余談ですが、つらい軍隊生活に甘  
いものを提供して喜ばれたのが月寒あ  
んぱん。パンのような饅頭のような不  
思議な味は司令官官邸前に健在です。  
軍隊が住民のために道路を開削した  
ときに、このあんぱんが毎日届けられ  
たという通称「あんぱん道路も」さつ  
ぽろふるさと文化百選」の一つ。

つきさつ郷土資料館には、こうし  
た月寒の歴史に関連した様々な資料が  
展示されています。それらは地域の歴  
史というより、北海道の歴史が詰まっ  
ているといっても過言ではありませ  
ん。興味のある方は一度どうぞ。



自分史づくりがブームといわれてだいぶたちます。昔からある自伝や自叙伝との違いは、ごく市井の人が気軽につくっているということ。世の中の進むスピードがあまりにもはやい、その流れの中に自分も埋没してしまいそんな危機感が、本という自己表現の手段を選ばせるともいえるでしょう。自分だけのオリジナルということも大きな魅力です。とはいえ多くの人にとっては、いままでやったことのない分野。ここは専門家の助けを借りたいところです。

# あなたの疑問に お答えします。

## 04年本づくりおしやべり会 開催

- 平成16年9月25日(土) — 「自分史講座」
- 平成16年10月2日(土) — 「自分史講座」
- 平成16年10月16日(土) — 「俳句入門」

こんなことが心配のほすです。

- 1 自分史や句集を作りたいけど、どんな本にしたらよいのだろうか
- 2 資料づくりはどうやったらいいのかわからないか
- 3 全体の構成がむずかしそうだが
- 4 長い文章をあまり書いたことがないか
- 5 原稿はどんなかたちで渡したらよいのか
- 6 印刷会社はどのくらい手伝ってくれるのか

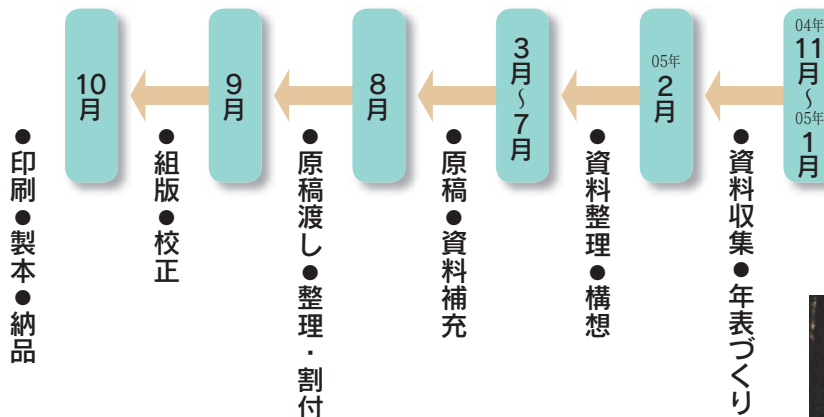
ベテラン編集者と印刷会社の書籍担当者が、わかりやすく、明日からでも取りかかれるようにアドバイスをいたします。



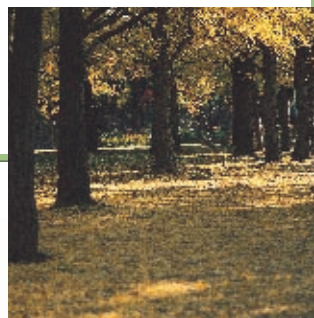
2005年10月完成めざして

来年秋季までには「私の一冊」を完成させましょう

●こんなスケジュールでいかがでしょうか。



本づくりおしやべり会・会場  
(社)印刷紙工  
札幌市中央区南15条西18丁目  
TEL(011)561-3597  
●いずれも午後2時から



残しておきたいものです。

広島平和公園の千羽鶴に放火した学生の大学が、ヒロシマ・ナガサキ講座を開設して、学生たちに戦争の悲惨さを学ばせているそうです。こういうことでもなければなかなか戦争について学ぶ機会のないのが現実なのです。戦争体験に限りません。たくさんの人に知ってもらいたいことを伝える手段の一つは、本にすることです。それも「いまでなければ」という真剣な取り組みが、よい本になることを約束してくれます。

ている人たちが、最も子供や孫の世代に残しておきたいことは、戦争体験でしょう。2度とあの悲惨な戦争を繰り返してほしくないという願いからです。活字離れが顕著な時代に、本の1冊も

## 本にして残す意味 年々減っていく語り部

手に取らせることはなかなか困難なことには違いありませんが、自分の身内や知人が綴ったものとあれば、いつの日かひもといてくれるのではないのでしょうか。想像力を喚起してくれる強力なベースを

今年度の終戦の日の各紙社説に共通していたのは、来年が節目の戦後60年ということ、そして戦後生まれが人口の4分の3を占めるようになったということです。

つまり年齢でいえば、戦争を知らない59歳以下が75%、戦前に生まれていても幼くて戦争の記憶がない人などを加えるとそれ以上になるわけです。やがて日本は戦後生まれの人たちばかりに。戦争を語る人はゼロになってしまいます。

戦争体験皆無の国民ばかりが戦争を語る時、そこに求められるのは想像力ですが、歴史の教科書やテレビの戦争報道より説得力を持つのは、肉親や知人の話でしょう。

● ●  
確たる統計があるわけではありませんが、いま自分史をつくりたいと考え

## 本・づ・く・り 相談室



### ◎ 体調が悪くなり、 口述筆記を頼みたいが

資料をそろえ年表もできあがったところで体調が悪くなり、なかなか机に向かうことができません。早く作りたいため、テープに吹き込んだものを原稿に起こしてもらえればと考えていますが。

### ▲ 素人では難しいので むしろ代筆で

口述筆記とは、作者がしゃべる文章をテープに録音しスタッフが文字原稿にしたものに、作者が筆を入れて完全原稿にする方法で、主に流行作家が使う手です。

素人でも出来ないことはないと思いますが、口述に当たつての周到な準備が必要なことは言うまでもなく、作家ほどでなくてもすらすらと文章が

出てこなければなりません。ある程度書き慣れた人でもない限り、時間のかかることは目に見えています。

それより最初から代筆を頼み、後で自分なりに加筆、修正していくのはどうでしょうか。

まず資料と年表、自分なりの構成、ページ数などをざつぱらんにライターにオープンにし、改めて数度の補足インタビューをしてもらいます。そして代筆してもらった原稿を直していくのです。

世に言うゴーストライター式ではなく、あくまでも自分流に仕立て直すことがポイントです。

## 出版ニュース

### 句集 勿忘草

葛西 徹



(B6判  
274ページ)

妻とともに句作に励み、いつしよに句集を出そうと計

画していたところ妻が急逝。著者の喜寿を機会にかつての夢を実現したという一冊。

二人の師であった人の作、七十句を冒頭に、続いて亡き妻の六十句、そして本人の五百八十九句という構成が、著者の人柄をしのばせます。

夢に咲く勿忘草は妻の墓平成十二年の初版は装丁などに納得がいかず、改訂版とした「生涯の一冊」。

法名は釈徹堂よ喜寿の春

### 句集 木洩れ陽

高橋 恭子

いまここにただ一冊の歌集出す幸せ抱けり六十路半ばに(歌集「木洩れ陽」なる)

こう最後の歌で結ばれる歌集には、著者が岩内高校時代から詠み始めたという膨大な数の歌が収められています。青き花揺るるままに、吾子三人の狭間に、姑とありて、旅・エネルギーとあった目次からもわかるとおり、まさに自分史そのもの。夫がワープロ原稿を作り、カット、写真、題字にも人の手を借りてと、心のこもった歌集に仕上がっています。



(A5判  
278ページ)

## ここで調べる

札幌市資料館

## ヒント得られる 資料閲覧、相談



す。札幌市資料館もその一つでしょう(大通西一三丁目)。そもそもが大正十五年に完成した軟石づくりの有形文化財札幌控訴院(高等裁判所)です。札幌市資料館もその一つです。

身近にあつてなかなか足を運ぶ機会のない施設があるもので、札幌市資料館もその一つです。さらに何かを調べたい人には、資料館の収集資料の閲覧、質問、相談が出来るのが大きな楽しみ。資料は刊行物、写真、絵葉書など七万点近くにもなり、思わぬ収穫があるかもしれません。ほかにさつぽろ文庫、札幌市史などもそろっています。

電話/二五一〇七三三

## 短信

### 応募で書く練習

自分史づくりとは直接関係ありませんが、ものを書くクセ、考える習慣をつけるという意味で、企業や団体が募集するエッセーや体験記、短い創作、キャッチフレーズなどに応募してみるといいかもしれません。

その種の賞の公募情報を一冊にまとめた雑誌が数種類並んでいます。

自分史に挑戦するつもりが、そちらの賞の方が

面白くて新たな創作意欲がわいてくるかもしれません。中には本格的な自分史文芸賞(北九州市)などというものもありますので、締め切りや得意分野などを考えながらの決断です。

■自分史セミナーの「出前」します 印刷紙工では三面でお知らせした「本づくりおしやべり会」のほかに、都合で来られない方やお仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っております。五人以上のお集まり

■小紙をお送りします 小紙をご希望の方には、定期的無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。

で、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当がお伺いして、いろいろとアドバイスさせていただきます。

■記念誌づくりもお手伝い 企業や団体の節目の設立周年(二十周年、三十年...)にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。